



NHKニュース(首都圏) 2014年1月1日

2020年のオリンピックとパラリンピックの開催に向けて、外国人の受け入れ体制の整備が課題となっている東京都で、大きな病院の多くが、外国人の患者に十分対応できていないことがNPOの調査で分かりました。都内では、英語を話せるスタッフをそろえた診療所や薬局が開業するなど、外国人を受け入れる態勢を整えた医療施設が増えています。

一方、医療関係者でつくる名古屋市のNPOが、去年、都内の病床が100以上ある383の病院にアンケート調査したところ、回答した57の病院のうち、「外国人の患者に十分に対応できている」と答えた病院は9つにとどまる一方で、18の病院が「日本語を話せない外国人患者を受け入れたことがない」と答えました。

課題として、病院内のスタッフのほとんどが外国語を話せないことや、通訳を雇う財政的な余裕がないことがあげられています。

調査をしたNPO「先端医療推進機構」は「2020年の東京オリンピックに向けて、訪れた患者の診察を拒否することがないよう、

研修などを通して、医療関係者が語学力を身につける機会を増やす必要がある」と話しています。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20140101/k10014223111000.html>